

五十五 発葬祭詞

この小床を仮の喪屋と齋い定めて暫し置き据え安め奉る故天理教△△布教所長△△△△大人の御柩の御前に慎しみ敬い歎かいて白さく

久方の空行く月の清き光りにも立迷う浮雲の障りあるが如く春山に咲き乱れる花の梢にも吹き荒ぶ嵐の嘆きある如くあわれ汝大人はもかりものという世の慣い得免がれ給わずまだ心残れるこれの現世を退向になされしは悲しども悲し口惜しきども口惜しき限りにぞある

汝大人はや日本海を臨む若狭湾岸の静かなる街○○で産声を挙げられ多くの家族達の温かい心に育まれしが学舎に入られし頃ほいより風雲急を告げ支那事変より大東亜戦争に至る疾風怒濤の時代を少年期に経験されたり終戦後程なく△△商店に勤め勞づく兄と共に働く身となられしが

いち早く世界一列兄弟姉妹の陽気ぐらしをひたすら望まれる親神の御教えに触れ人生の眞のあり方を学ばむものと親里ぢばにて三ヶ月の修養に励まれたり程なく親神の奇しき御働きならむ同じ故郷

○○で育ちし故△△刀自と婚姻の晴れやかな御式を挙げられその後はブロック工事を専業としつつ多くの子宝孫達にも恵まれ些かながら年毎に幸せ多き家庭を築かれたりやがてここ○○市の周り

に「かしものかりものの自覚」「神のふところ住まいの有難さ」から「進む心の成人を促し互い立って合い助け合いのこの世にいささか乍ら資せむものと昭和○○年布教所開設の意義深き旬を迎えられ

るに至るその後妻△△刀自は進んで家政婦となられ病床に悩み苦しむ人々への看護に明け暮れされる身となりしが俄かに重い御病に伏され遂に平成○年五月予想だにせぬ來世に向かつて早くも

門出されたりそれから今日に至る三年半男やもめの淋しさを越え遺れる子達孫達への妻の愛情に代らむものと尚又たすけ一条の道の上にも努力に努力を重ねられしにああ空蟬は術なきものか

俄かに汝大人も又厳しき御病の床に釘付けとなり遂に親神に祈りし甲斐もなく医師の業も尽き果ててこの年この月○日午後○時半を生きの限りとして逝く水の還らぬ如く入る月の影消ゆるが如く

俄に朝露のごと夕露のごと果なく出直し坐しつるは云わむ術為む術知らに今更に夢に夢見る心持なむあわれ悲しきかもあわれ悔しきかも

今日よりは汝大人の言葉聞けずやなりけむ明日よりは優しき御姿永久に見えずやなりけむと雨雲の空かき曇る心地なもするを身退かりし人の蘇るべくもあらず今は一世の終の式儀仕え奉り

て永き別れを告げ奉らくを平らげく安けく諾い給いて我が親神の思恵を思い頼み百足らず八十の限路を迷う事なく唯一筋に親神のふところに行き奉りて遺れる家族親族たちを己が向々

あらしめ給わず清きあかいき心もてそれぐの立場つとめに勞つき奉らしめ給い汝が遺骸は千代の住所と定め奉れる奥つ城所に平らかに安らかに出て立ち給い汝大人は再び新しき着物を召され

ていち早くこれの世に出直し給えと遺されし功績に深く感謝しつつ露けき袖の涙をはいし慎しみ敬いて白す